

「エリツ・ヴィルサラーゼ

ミニリサイタル及び公開レッスン」が行われました。

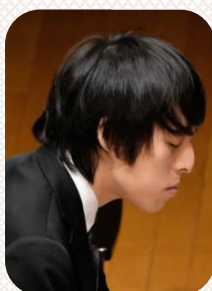
2018年12月13日（水）17：30～ J館スタジオ



東京音楽大学のピアノ5コースに長く開講している授業「作品解釈」を一般公開し、「エリツ・ヴィルサラーゼ ミニリサイタル及び公開レッスン」が、本学J館スタジオで行われました。

前半のヴィルサラーゼ客員教授によるミニコンサートでは、モーツァルトの「ロンド ニ長調 K. 485」、
「ロンド イ短調 K. 511」、シューマンの「ダヴィッド同盟舞曲集 作品6」を演奏し、聴衆を感動の渦に包み込みました。

後半の公開レッスンの曲目は、ブラームスの「7つの幻想曲集 Op. 116」、受講生は、浜松国際ピアノコンクールで第6位を受賞した大学院音楽研究科の安並貴史さん。気迫のこもったレッスンが行われました。ポイントを押さえた具体的な指導に安並さんは瞬時に応えていきました。レッスンはテンポよく、わかりやすく、先生の生の音と声が聴ける、公開レッスンならではの臨場感あふれる有意義で、充実した時間でした。



受講生 安並貴史さんインタビュー

自分の中でもやもやしていたところを、ものすごくピンポイントで突かれたような感じがします。短い時間でしたが、先生が本当にすごいなと思いました。あらためて間近で見て、先生の手の動き方とか、体全体のオーラといいますか、今まで出会ったことのない何かに出会ったような感じでした。先生の演奏もまた聞きたいです。すごく楽しかったです。